

不動窟と波切神社

不動窟は海辺の洞窟で、鵜戸神宮の本殿がある場所によく似ていますが、ただ規模は小さくなっています。この洞窟は何世紀にもわたる崇拜の場で、もともとは文明から遠く離れた過酷な状況で長期間を過ごして精神修養を行う修行僧のためのものでしたが、後に地元の漁師にとっての祈りの場となりました。現在の神社は海の神々が祀られていますが、この神社は神道と仏教の明確な区別がなされていなかった 1868 年以前の日本の歴史の典型です。名目上は神道の建造物ですが、仏教を象徴するもので飾られています。神社横の石造りの退避所の下には、忠実な信者を守り、守護者の激しい愛情で信者を導くとされる、仏教の五明王の一人である不動明王の像が立っています。この特別な彫刻は、船乗りの守護神「波切」の顕現である波切不動明王が表現されています。不動窟には、鵜戸神宮から山腹の小道を経由して徒歩 30 分以内で行くことができます。